



あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG

VOL. 26
2018.10



- 15 MGにこの人あり
 - 14 CAMPUS NEWS
 - 13 サークル紹介
 - 11 卒業生の仕事場訪問
 - 09 Myway MGway
 - 09 ACTION
 - 07 MGUの学生たちが多方面で活躍中!
 - 07 特集 2018 大学祭開催!
 - 05 学問へのいざない
 - 01 誌上セミナー
- 「ピアノの上達とともに人間としての成長」を学ぶ
「人生に通じる、結果とプロセスの関係」を学ぶ
知識を实践する課外活動の現場で
「本当に学ぶべきこと」が見えてくる

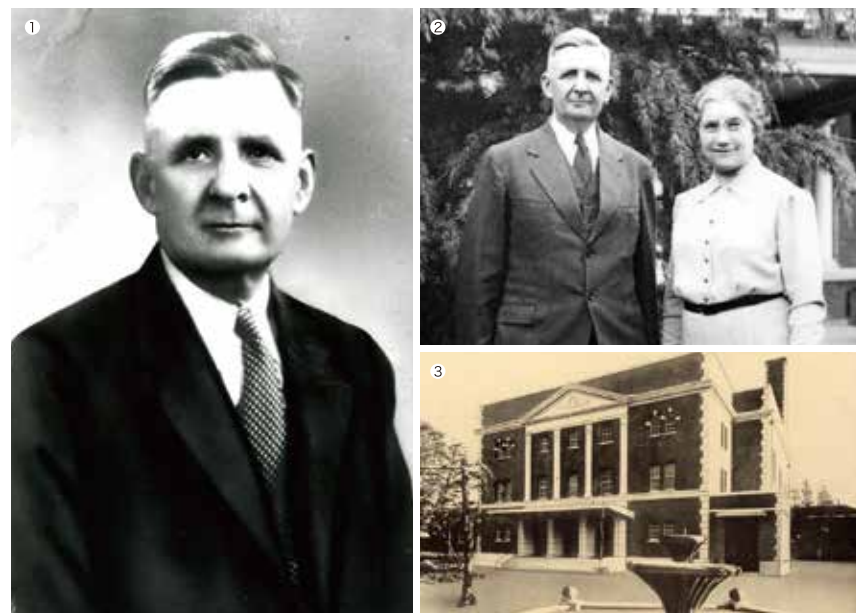
「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。



カール・D・クリーテ

1911 (明治44) 年11月、アメリカの合衆国改革協会から派遣され、来日した宣教師。その後、20年近く伝道生活を送った山形を離れ、夫人のバスと共に仙台へ移住。1930 (昭和5) 年、宮城女学校の第7代校長に就任しました。在任期間中である1936 (昭和11) 年には女学校の創立から50周年を迎え、さらに1938 (昭和13) 年には大講堂の献堂式が行われるなど、宮城学院女子大学 開学の礎を築いた名校長でした。

しかし、就任から10年後の1940 (昭和15) 年、国内での軍国主義的風潮が徐々に高まる中、外国人である自分が学校に留まるべきではないと判断して、校長を辞任。後任として指名した西山貞 (第8代校長) に宮城女学校を託し、1941 (昭和16) 年、夫人と共にアメリカへ帰国しました。



① 度重なる試練を乗り越えたクリーテ ② 仲良く写真に納まるクリーテ夫妻 ③ 献堂後すぐの大講堂 (1938)

MG archives

多くの市民にも親しまれていた大講堂

1929 (昭和4) 年に起きた世界恐慌の影響もあり、クリーテは在任期間中、大変苦勞をします。しかし彼は、礼拝堂を兼ね備えた大講堂建設の資金調達を、アメリカの外国伝道局に繰り返しそして粘り強く要請します。さらに同窓会の協力もあり、1938年 (昭和13) 年1月30日、大講堂が献堂されました。学院内の各行事に加えて、音楽や演劇といった学外の文化的行事の拠点として、宮城学院の生徒たちはもちろん多くの市民にも親しまれていました。



「課外活動 SAY」

知識を実践する課外活動の現場で

「本当に学ぶべきこと」が見えてくる

アスリートの活躍を裏方として支える「スポーツ栄養学」

身に付けた知識を伝える
 伝えることに意味がある

丹野 今日にはゼミを受講している学生で、かつスポーツ栄養学研究会「Sport ayou(スポーツ栄養)」で中心となつて活動している学生が集まっていたいただきました。私は、スポーツ栄養学という分野が今ほど知られていなかったときに、宮城学院女子大学のゼミで学ぶ機会があり、卒業後は東北大に管理栄養士として勤務しながら漕艇部の寮で栄養指導を行ない、その流れから体育大学で教えるよう



丹野 久美子 准教授

になりました。2013年に宮城学院女子大学に着任してすぐに、学生の要望により、スポーツ栄養について学んだり、実践したりできる自主活動の場として、「Sport ayou」という団体を立ち上げました。主な活動は、外部のスポーツ団体の合宿の食事づ

くりのお手伝い、学生の自主的な勉強会、選手・保護者向けのセミナーの開催、他大学との交流などです。
 佐々木 私は女子中学生のバレーボールチームをサポートしたり、最近では、東北福祉大学のハンドボールチームの体組成を測ったり、合宿や遠征中の食事のアドバイスなどを行っています。全

生活科学部 食品栄養学科
 丹野 久美子 准教授

[生活科学部 食品栄養学科のみなさん]

- 佐々木 優花さん (4年)
- 工藤 恵さん (4年)
- 内田 真由さん (3年)
- 佐藤 いづみさん (3年)



ポートのおかげ。次は勝つから、またよろしく」とLINEでメッセージをもらったときは、嬉しくて泣いてしまいました。私は高校まで水泳の選手で、母が独学で栄養学を勉強してハードな練習を支えてくれました

が、そんなふうには選手をサポートできたらと思います。

丹野 いくら説明しても食事をとらないチームでしたが、2年かけて初めてお礼の言葉をいただいて、勉強のモチベーションも上がりましたね。

佐々木 種目の知識や身体の動き、選手を理解したうえで栄養学の知識をもってこない、求められる知識の提供はできないと思いました。授業の中で学んだ基礎知識を現場で実践でき

り、過去に勝っていたチームに負けたとき「せっかく支えてくれたのに、勝てなくてすみません」と言われて、もつと力になりたいと思いました。
 丹野 東北福祉大学のハンドボール部は朝に練習しています。佐々木さん、工藤さんは早起きしておにぎりを作り、始発のバスに乗って届け、自分たちの授業に間に合うようサポートするのは大変だったと思います。自身がチームのファンになり応援する気持ちも大事ですね。

て調理をしたり、週1回練習を見学したりしています。将来アスリートになったときに自身の体重管理、睡眠時間や食事内容の把握などが必要になるので、健康ダイアリーを配布して回収し、コメントをしています。
 食が細かったり、食事をとらなかつたりするため、長時間の練習に耐えられない選手がいます。本当に必要性を感じてもらえないと、食べてもらうのは難しいですね。約2年前からチームに関わっています



佐々木 優花さん

工藤 私は、中学からハンドボール部に所属して、身体が小さくても当たり前負けをしない身体をつくりたいと思い、スポーツ栄養に興味を持ちました。活動では、佐々木さんと同様に東北福祉大学のハンドボール部をサポートしています。年上の相手に自分の思いを伝えるのはとても難しいです。2年かけて徐々に存在が認識されるようになって

内田 私は大好きな女子サッカー選手の役に立ちたいと思った時期に丹野先生を知り、高校時代の夏休みに活動に参加させていただきました。今は女子中学生のバレーボールチームの栄養サポートをしています。合宿に帯同し

者に情報発信をするようになったことで質問をいただくことが増えました。時間があるときは、保護者を対象に栄養講座を開いています。情報交換をするいい機会になっています。
 丹野 女子は中学時代に身長と体重が



工藤 恵さん

必要な栄養サポートは違う

前からのチームに関わっています

Partir



急に増えますが、バレーは身体が軽い方がいいのでダイエットをする人が多く、貧血や疲労骨折などを起こしやすくなります。選手だけでなく、親に対する栄養教育も大事になりますね。

佐藤 私は高校時代に1カ月で2キロも体重が増えてしまい、当時陸上競技をしていましたが、身体が重く、記録も伸びなくなっていました。その際先生に相談をして、食事管理で5キロ落としたことから栄養学に興味を持ちました。11月には他大学と合同で勉強し交流する会を開催しますが、今年はその運営を私が担当しています。交流会では、他の大学の学生と話す機会もあり、また、トレーナーの視点から話す専門学校生の考えも新鮮です。



佐藤 いづみさん



内田 真由さん

しました。私と工藤さん、内田さんが参加しましたが、収穫が大きかったので、昨年の交流会では、同じ内容を実施しました。今年8月には、フットサルのヴォスクオーレ仙台のキャプテン・荒牧太郎選手と、公認スポーツ

栄養士で、荒牧選手の栄養サポートを9年間担当していた清野準さんを招いてセミナーを開催しました。清野さんが私の教え子だったこと、選手の話聞きたいという学生の希望もあって、実現しました。

佐藤 清野さんは、サポート内容を具体的に教えてくれました。選手と信頼関係をつくること、選手のやりたいうことを尊重しながら、栄養指導することが大事だと教わりました。

丹野 フットサルに必要な食事は何かという学生の質問に対して、清野さんが「フットサルに必要な食事があんなら僕が知りたい」と話されました。一人ひとりのニーズが違うので、その選手の体格、年齢、レベル、競技特性を知り、そのうえで信頼関係が大事だと。選手のつらさをわかりたいと栄養士も選手と一緒に同じトレーニングした話は、学生も驚いて

いました。学生が目指している、スポーツ栄養士である清野さんの話は響いたと思います。

スポーツ栄養を学んで 見えてきた目標と課題

丹野 みなさんは、これまでの活動を卒論や進路にどう生かしますか。

佐々木 私はカンボジアのある村で離乳食を根づかせる活動をしていて、卒論のテーマにしています。カンボジアには離乳食という概念がなく、栄養が偏りがちで幼児の発育不良などがあり、その解決に取り組んでいます。今は1年から取り組んできたスポーツ栄養学と、卒論で取り組んでいる離乳食の研究とのどちらに重きをおくか決められなくて。栄養教育なども専門的に勉強したいので、卒業後は大学院への進学を目指しています。

丹野 スポーツ栄養のグループのなかに

もうひとつ、FAS (Food and Smile) という防災食ボランティア団体があり、佐々木さんが代表になって活動していました。電気やガスが止まったときに子どもたちに作る食事、子どもたちでも作れる食事といった、食育活動をしています。そこで電気や水道が整備されていないカンボジアでの活動、離乳食の研究につながりました。

佐々木 スポーツ栄養に関わったからこそいただいた機会ですし、おかげで自分の視野が広がり、もっと何かできないかという考ええています。

工藤 私は今、先生の紹介で社会人実業団のハンドボール選手を対象に、食事の内容と選手の体格、体脂肪率、体力テストの関連性をデータとして分析し、栄養指導を行っています。活動を通じて学んだ、人との関わり、言葉遣いはこれからも生かせると思

ます。

丹野 食事に対する思いこみを覆すには、栄養バランスのいい食事の大切さをデータで示すことが大事ですね。3年生は、残りの学生生活でやりたいことはありますか？

内田 クラブチームのスタッフとして活動していますが、これからは管理栄養士の国家資格をとって、幅広く、深い知識を身に付けて、選手たちとやりとりができる関係をつくっていくことが目標です。チームが勝ったから正解、負けたから失敗ではないと学ばせてくれたチームに恩返しをしたいです。特に中学生は身体が変わる、将来を見据えて我慢する時期なので、その不安を少しでも和らげるサポートが私の役割と考えています。

丹野 試合で活躍するためには、数カ月前からの身体づくり、試合のエネルギー源は前日の食事、緊張した状態で

しつかり食べるには普段からの食生活が大切ということを選手に実感してもらおうのは難しいですね。それでも、実感していただけると、何年でも続けてもらえます。

の先は学生の意思、自主性にゆだねます。Sport youは学生の団体ですが、参加する以上は1人の大人、社会人として、選手、保護者、指導者と責任をもって関わり、自覚して学んでほしいと思います。

丹野 私は資格をとってから実践経験を積むのでは遅いと思っています。学生のうちから経験を踏んでほしいと考えています。「学生時代にもっと勉強しておけばよかった」そんな卒業生の言葉をよく耳にするからです。私ができることは、「あれをやっておきたかったのに、その場がなかった」と後悔しないように場を提供すること。最初の窓口は私と監督になりますが、そ

初めは私と監督になりませんが、そ





「人生に通じる、結果とプロセスの関係」を学ぶ

教育学部 教育学科 大江 淳悟 准教授

私は、人よりスポーツができない子どもでした。小学生の頃は、スポーツができる男の子は憧れの存在だったの

保健体育教諭や養護教諭の教員免許取得を目指す学生にスポーツの理論や実技、指導法などを教えています。

今年からは宮城学院女子大学で、

「負け」から「勝ち」へ
努力の成果を自らが実感



ず、社会の一員として外せないのが「礼儀・礼節」であり、人として外せない

将来につながる活動を
積み重ねることが大切

価値のある分野だと思っています。

果が目に見えてわかるので、その結果に至る過程を学ぶことで、人生に活用

で、同じようにかつこよくなりたくない一心で自主練習に取り組みました。すると、小学5年生頃からサッカーや水泳で成果が出始め、素質があっても努力しない人に勝てるようになりました。スポーツは積み上げた分が如実に結果となって表れます。特別なことをしなくても、当たり前前ことを当たり前前に積み上げれば、ある一定のレベルまで到達すること

自分が所属する健康教育専攻の卒業生たちがスポーツ業界で活躍している姿も是非見たいと思っています。

それが当たり前、気がかりな点があります。この大学の保健体育教諭の教員免許取得を目指す学生は、部活動参加率が高くなく、授業外の運動機会が不足していることです。保健

体育の教員採用試験では、日々部活動やクラブチームで競技を行っている体育系大学の学生と戦わなければなりません。4年間を通じて、将来につながる活動をしっかり積み上げて、自分の力を高めることに重点を置いてほしいと思います。

Profile

愛知県名古屋市出身。鹿屋体育大学体育学部卒業。広島大学大学院教育学研究科博士課程後期単位修得退学。博士(学術)。広島大学大学院教育学研究科助教、フリースポーツトレーナー等を経て、2018年4月から現職。○信条「礼儀・礼節・義理・人情」

私のおすすめ本

やる気のスイッチ
山崎拓著(竹書房)

やる気のスイッチを入れる具体的な方法論が提案され、的を射た内容ばかりです。十数年前に購入して何度も読んで、今も継続して実践していますし、スポーツ指導研修の際にも使っています。やる気のスイッチを入れて、幸せな人生を送ってほしいですね。



これが学びのツボ!

空き時間、長期休暇などの授業外の時間をどう使うかが大切です。オフの時間を計画的に使い、自分の力を伸ばしてほしいですね。時間をかけて継続的に積み上げていくと、力がついていくのが実感できると思います。



「ピアノの上達とともに人間としての成長」を学ぶ

学芸学部 音楽科 松山 裕美子 准教授

学生に寄り添い
個性を引き出す指導

母がピアノの教師ということもあり、物心ついた頃には常に音楽が身近にありました。ピアノの道に進み、宮城学院では音楽教室を含め35年間ピアノの指導をしてきました。なかには20年近く成長を見てきた学生もいて、卒業後もつながりがあります。ピアノの指導では、一人ひとりの個性を引き出し、一緒に曲を作っていく努力をしています。音楽の答えは一つではありません。同じ曲でも指導も仕上がりが違うものになり、思わぬ感動を受けることもあります。時には忍耐も必要ですが、学生自身が悩みながらも自分にとって大事なものが音楽だと気づいてくれた時、突然上手になる姿も見えてきました。個人指導が基本なので学生と共に悩み、考えて一緒に乗り越え、成長で

人に伝わる、心が動く
演奏ができるように

音楽は、学問という域を超えて「心」

なわけではありません。演奏には心が出ます。私自身、ある熟練のピアニストの第一音を聞いて、自然と涙がこぼれた経験が何度もあります。生の演奏にふれた時に過去や未来を思ったり、何かを決心したりする、そのような心に作用する演奏ができるようになってほしいと思います。

音楽は人に伝えること、演奏することにおいても指導することにおいてもです。人に伝えるためには、まず自分が感動することが大切です。美術館や映画館に行ったり、本を読んだり、いい音楽を聴いて、芸術のエネルギーを自分のなかにたくさん貯めてほしい。幅広くいろいろなことを



Profile

宮城学院女子大学学芸学部音楽科卒業。同大学音楽科研究科修了。同大学附属音楽教室教師、音楽科非常勤講師を経て、2017年4月より現職。(公社)日本演奏連盟、(公財)日本ピアノ教育連盟、(一社)大学女性協会、(公社)宮城県芸術協会各会員。○信条「感謝を忘れないこと」

私のおすすめ本

ルネッサンスとは何であったのか
塩谷七生著(新潮文庫)

西洋史、芸術、音楽を語る上で欠かせないルネッサンス期について、新しい解釈で解説。ルネッサンスの走りとしてアッジの聖フランチェスコを挙げるなど、目からウロコの一冊です。一冊だけを選ぶのは悩みましたが、読みやすいですし、今だから動機たい本です。



これが学びのツボ!

大学を卒業したら、自分で考えて伝える機会がたくさんあります。そのために、4年間は人の意見に耳を傾け、素直に受け止め、いろいろな方向から見ることで、そして自分で考える習慣を身につけてほしいと思います。

10/12^金 仮装パレード

思い思いのコスチュームに身を包んだ学生たちが、一番町アーケード街など市内中心部を練り歩き、大学祭の開催をPRしました。



2018 大学祭 開催!

宮城学院女子大学の秋の風物詩ともいえる大学祭が、10月13日(土) 14日(日)の2日間、桜ヶ丘キャンパスで開催されました。今年のテーマは「宮学浪漫 ～輝け!アオハル～」。

この日にむけて、長い期間準備や練習を重ねてきた学生やサークルのメンバーたちは、日頃の成果を披露しました。



10/13^土・14^日 一般公開

各サークルによるステージ発表や展示、生演奏、物品販売を行う模擬店など、キャンパス全体が多くの来場者で賑わいました。



Action

MGUの学生たちが 多方面で活躍中!

学内はもちろん、
さまざまな舞台で活躍する
MGUの学生たち。
ここでは、そんな彼女たちの様子を
紹介します。

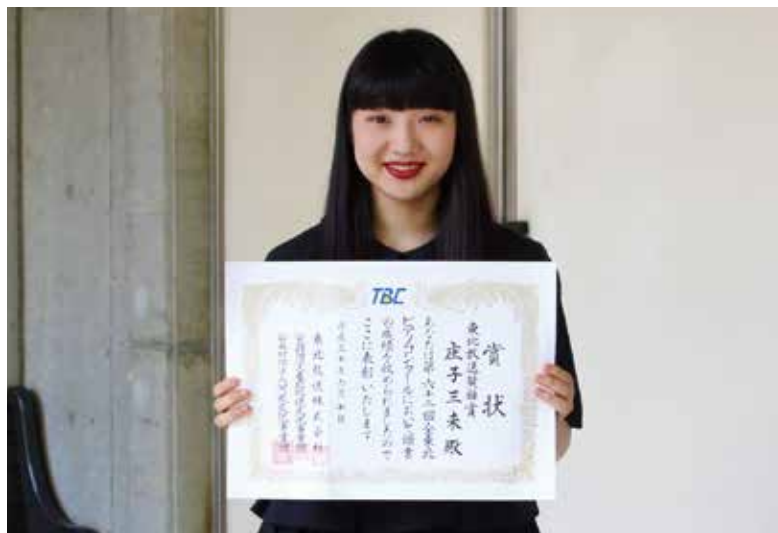
「第62回 全東北ピアノコンクール」で 音楽科の学生が「東北放送奨励賞」を受賞!

6月10日に開催された第62回全東北ピアノコンクールで、庄子三未さん(音楽科2年)が、東北放送奨励賞を受賞しました。

「過去2回の出場時には、満足のいく結果を残せなくて:(どちらも予選敗退)。プレッシャーに負けない強いメンタルを持って、自分の演奏をしたい!という思いを胸に出場しました」と話す庄子さん。受賞の感想を聞くと、「多少のミスはありましたが、楽しく弾くことができました。師事す

る先生や友人も、本当に喜んでくれて…。特に送迎や食事の準備など、身の回りのサポートをしてくれた両親には、とても感謝しています。(今回の受賞で、両親に)少しは恩返しできたのかな、と思います」と答えてくれました。

「観客のみなさんに『もっと聴いてほしい!』そう言ってもらえるようなステキな演奏ができるよう、これからも一生懸命練習していきます!」と、今後の目標を笑顔で答えてくれました。



ボランティア団体Food and Smilee!が 防災運動会で サバイバル飯を提供!

食品栄養学科の団体で、災害食のボランティア活動をしている「Food and Smilee!」(以下FAS)が、6月23日に開催された「防災運動会」で、サバイバル飯(非常食。通称サバメシ)を参加者に提供しました。防災運動会は、災害発生時に役立つプログラムを、競技に採り入れたイベント。当日FASの学生は、短時間で手間をかけずに作れるサバメシ3品(豆腐とツナのナゲット風、切り干し大根サラダ、乾パンかりんとう)を参加者へ提供。「非常食なのにおいしい!」と喜ぶ参加者も多く、いずれのメニューも大好評!さらにメディアからの取材にも対応しました。



現代ビジネス学科の学生たちが 「大学生観光まちづくりコンテスト」で優秀賞を受賞!

9月5日(水)、茨城県で開催された「大学生観光まちづくりコンテスト2018茨城ステージ」で、現代ビジネス学科宮原育子教授のゼミ生たち(2年生チーム・ずんだべくず)が、優秀賞(第2位)に輝きました。このコンテストは、観光によるまちづくりプランを競うもので、41大学100チームが応募。本選へ進出しただけでなく、は「茨城県3分間の旅」をテーマにプレゼンテーションを行い、審査員から高評価を得ました。また、学生が自ら作成したポスターでプレゼンテーションを行う「ポスターセッション」も行われ、1年生チーム・プラムガールズが優秀賞を受賞しました。



——15年勤めた旅行会社を退職して、大学に入り直したのはなぜですか。

たくさんのお客様の旅行企画や手配を担当する中で、さまざまな気づきがあり、その一つが「健康」でした。お客様の中には、健康上の理由から旅行を取りやめる方もいて、その度に1日も早い回復を祈るとともに、健康に暮らすことの大切さを感じていました。退職後、1カ月ほど海外に滞在した際に、一生続けられる仕事として「健康と食」というキーワードが見えてきました。思えば、体調を崩すことなく連日遅くまで仕事を続けられたのは、母の手料理のおかげで、健康は一生のものであり、ベースは食べ物にあるのではないかと思います。ちょうどその頃、病院内の管理栄養士の役割が注目されているという新聞記事を偶然読み、栄養学を学んで再出発しようと母校へ入学しました。

——現在のお店をオープンしたきっかけは？

野菜ソムリエとしてイベントのお手伝いをした際、レストランで働く主人と



テーブルセッティングを丁寧に行う島津さん。「食材の背景にある生産者さんの思いを料理で伝えることを意識しています」

店舗で提供されるランチの前菜。野菜ソムリエの資格を持つ島津さんの意見やアイデアも生かされている

チョコレートにも興味があるという菫蒲さん。「同じ学科の先輩のお話はとても勉強になりました。今度は家族で食事に来ます」

夫婦で営むレストラン 生産者と消費者を 料理を通じてつなぎたい



【取材】
菫蒲 繭子（食品栄養学科1年）
【取材場所】
il mio campo（富谷市）

イル ミオ カンポ
il mio campo
島津 有紀さん

知り合い、将来自分のお店を持つ夢を聞き、それが二人の夢となりました。「食材の作り手である生産者の想いを、料理で橋渡ししたい」そんな主人の想いに賛同し、休日は二人で農家巡りをして、現場の声を聞くことも多かったです。

——現在の仕事の内容は？

ホールでの接客と厨房内の補助的な業務が中心です。イベントの企画や宣伝など、事務全般も行っています。調理全般は、シェフの夫が担当。メニューの構成や味見など、私の意見を伝えることもあります。また宮城の野菜、果物をテーマに、ランチとチョコレートを組み合わせた「ランチ&レックス」という企画も実施し、大好評でした。

——仕事上、大切にしていることは？

レストランは料理が美味しいのはもちろん「お客様への対応」も大切です。シェフの料理をより楽しんでもらえるよう、常に笑顔で接しています。

——どんな時にやりがいを感じますか？

食材の生産者の思いを直接お客様にお話いただき、その食材を使ったスペシャルメニューを提供する店内イベントを、年に数回開催しています。生産者とお客様につながることで、生産者が食育の講師として招かれたり、さらにその食材が新たに採用されたり、自然とつながりが生まれることに、喜びややりがいを感じます。「作るを伝えるみんなの食堂」というお店のコンセプトが、形になったと感じる瞬間ですね。

——これからの目標は？

お客様との縁で、音楽や芸術のイベント開催も増えています。今後はお店を通じて人々が出会う機会をさらに作り、シェフの料理でみんなが笑顔になってくれたら嬉しいですね。個人的には、管理栄養士としての知識や経験を生かして健康をテーマにした食生活の提案もしながら、il mio campo*をしっかりと育てていきたいです。

*イタリア語で「私の畑」の意

Profile 島津 有紀さん

山形県朝日町生まれ。秋田県立秋田西高等学校卒業。1990年3月に宮城学院女子大学英文学科卒業。同年旅行会社に入社。2005年3月退社。2006年4月、宮城学院女子大学食品栄養学科に入学。2010年3月卒業。2011年4月、大崎市古川の病院に管理栄養士として勤務。2013年12月、病院を退職。2014年2月、富谷町（現富谷市）に il mio campo をオープン。

サークル紹介 01

手話部

- 部員数: 18名
- 活動日: 毎週水・木・金曜日
- 活動場所: C407 教室ほか

「手話ソング」を通して
楽しく活動中!

モットーは「楽しく活動すること」という手話部。部員のほとんどが大学入学後に手話を始め、特別支援学校の教員免許取得をめざす学生などが在籍しています。普段は自分たちで手話を学びながら、手話ソング（歌詞を手話に変換して、メロディーに合わせて手話を行う）を練習し、毎年10月に行われる大学祭で発表しています。歌詞にあてはまる手話がない場合は、歌詞の意味を考えながら意識するなど工夫しています。

やりがいは「手話を覚える楽しさ」や
「曲をやり遂げた達成感」!

披露する曲は、メンバーみんなでアイデアを出し合って決めています。誰でも聞いたことのあるポピュラーな曲にすることで、より親しみをもって聞いてもらえるからです。手話を覚えることは決して簡単ではありませんが、「手話を覚える楽しさ」や「メンバー全員で手話ソングをやりとげた時の達成感」が大きなやりがいです。今後は手話ソングだけでなく、日常会話などのより実用的な手話も勉強していきたいと考えています。



大学祭ではおそひの衣装で
手話ソングを披露!



発表前の
ピラ配ソングの1シーン



部長
相澤 瑞希さん
(教育学科児童教育専攻3年)



7月24日(火)本学2ふカフェで「とみやブルーベリーフェア」が開催されました。これは富谷市との連携協定に基づく事業のひとつとして開催されたもので、当日は若生裕俊富谷市長も来学。本学の平川新学

「とみやブルーベリーフェア」開催

長や宮原育子社会連携部長らと共に、食品栄養学科・平本福子ゼミの学生考案の「ブルーベリーと酒粕のレアチーズケーキ」「ブルーベリークリームのおムレット」「バターサンドクッキー」を味わいました。近年「とみや」を推進するなど、スイーツの街として力を入れている富谷市とは、今後もさまざまな連携事業を行う予定です。



ヴォースクオーレ仙台との
アスリート栄養セミナーを開催

8月20日(月)、本学と連携協定を締結するフットサルフリーグヴォースクオーレ仙台のキャプテン・荒牧太郎選手と公認スポーツ栄養士の清野隼氏(筑波大学体育系特任助教)を招き、アスリート栄養セミナーを開催しました。まずは荒牧選手による体験指導。参加した学生は、ボールを足で扱うことの難しさを実感します。その後の講演では、荒牧選手が「目的を持ち行動することの重要性」を、清野氏が「準備することの大切さ」を説きました。最後は、学生が作った補食と一緒に食べるなど、プロアスリートやスポーツ栄養の専門家と有意義な時間を過ごしました。



サークル紹介 02

華道部

- 部員数: 22名
- 活動日: 毎週水曜日
- 活動場所: 会議室(学生センター3階)

コミュニケーションを大切に
楽しみながら花を生ける

「コミュニケーションを大切に、上手・下手に関わらず、楽しく花を生けること」がモットーの華道部。流派は小原流で、部員の多くが未経験からスタートしますが、楽しみながら活動しています。普段の活動では、先生が生けたお手本を参考に、まずは自分で花を生け、その後先生にアドバイスをいただいて仕上げしていきます。完成した作品は学内に飾られたり、SNSにアップしたりしています。大学祭では、毎年作品展示も行っています。

先入観を払しょくして
生け花の楽しさ・すばらしさを発信したい

生け花の魅力は、植物にいろいろなアレンジを加えて、美しく仕上げる場所。先生からは「花はモデル、生け手はカメラマンになったつもりで、いかに美しく仕上げるかを考えながら、表現するように」とアドバイスを受けています。「年配の人や器用な人がやるもの」といった先入観から敬遠されがちな生け花ですが、若者ならではの生け方をしたり、作品をSNSにアップしたりして、今後は生け花の楽しさ・すばらしさを発信していきたいです。



大学祭で展示された作品



より魅力的な作品にするよう
先生からアドバイス



部長
中村 彩乃さん
(人間文化学科3年)

1300「いいね!」突破!

大学公式 facebookに「いいね!」しよう!!



宮城学院女子大学に関する情報が
いっぱいの公式 facebook。おかげ
さまで、1300「いいね!」を突破しま
した!未登録の方は、ぜひアクセスし
て「いいね!」してくださいね!



www.facebook.com/mgu.ac.jp

あとがき

夏季休業中のひっそりとしたキャンパスと大学祭期間中の賑やかなキャンパス。どちらも同じ場所でありながら、学生たちがいる・いないでここまで雰囲気が変わるのか、と感じてしまうほど。みなぎるパッションやバイタリティーには、ただただ驚かされるばかりです。そんな活気あふれるキャンパスの雰囲気もそのままに、今回のパルティールには彼女たちの魅力をギュッと凝縮! 誌面を通して、読者の皆さまに伝われば幸いです。